

第三者意見

第13号の発行となる「THK CSRレポート 2019」に関する第三者としての意見は次のとおりです。

「非財務情報」の重要性

2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs、同年12月に採択されたパリ協定等、持続可能な世界へ向けた取り組みが大きく動き出しています。さらに国内では、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が2015年9月にPRI(責任投資原則)に署名したこともあり、ESG投資への関心も高まっているため、投資家は、企業の売上高や利益といった「財務価値」だけを評価する時代から、長期的にかつ安定的に成長が見込める企業か否かを判断する視点として、環境・社会課題に対してどのように取り組んでいるのかの「非財務価値」を評価する時代に変遷してきています。

このような状況下、本レポートでも冒頭の「CSRの方針」では「長期的な企業価値の向上を目指します。」、また「トップメッセージ」でも「製品群はSDGsの目標実現にも大きく寄与する」と記されています。そして特に高く評価したいのが、「THKの考える社会的課題とCSRの関連性」の見開きのページで、「長期的な企業価値の向上と本業を通じた豊かな社会づくり」の実現に向けて、「CSRの重点項目」がSDGsのアイコンと共にわかりやすく整理されている点です。さらにこの「CSRの重点項目」は次ページ以降に貴社の考え方や、本レポートでの掲載ページも記されており、本レポート全体の道標にもなっています。さて「財務価値」に関するKPI(重要指標)は連結売上高他が設定されていますが、今後は、「非財務価値」に該当する「CSRの重点項目」に関してもKPIとして捉え、可能なものから中長期の目標(定性目標も可)を設定してPDCAサイクルで取り組まれることを推奨します。

サプライチェーンの視点

「取引先とともに」では「THKのサプライチェーン項目」が、「設計」「調達・購買」「生産」「流通」「販売」のステージ毎に列挙されています。今後は、この整理をさらに発展させ、例えば貴社に影響を及ぼす可能性のある「ビジネスリスクおよびビジネスチャンス」も想定し、場合によっては今後の「CSRの重点項目」に展開する(もしくは関連付ける)等、サプライチェーンの視点を重視してCSRレポートの内容を検討することも有効と考えます。

レポートに登場するステークホルダー

本レポート冒頭の「ステークホルダー関連図」で、貴社のさまざまなステークホルダーの全体像を把握することができます。そして「特集」および「お客様の声」で計6組織のお客様が登場され、貴社の高品質製品が環境・社会課題の解決に如何に貢献しているのか客観的な立場から述べています。それ以外にも、社外表彰を受賞された従業員、出張授業に参加された生徒や先生、そして「サイエンスキャスル研究費THK賞」受賞者と貴社ご担当者の声や感想も記載されています。このように数多くのステークホルダーが登場している点は評価できますが、登場するステークホルダーは、お客様に偏る傾向が見受けられました。今後は、紙面の制約もありますが、「CSRの重点項目」とも関連付けて、お客様以外のステークホルダー(例:コア技術製品の開発エンジニアや女性従業員、取引先・仕入先)も順次、登場し、多角的な声や感想が紹介されるCSRレポートの構成とすることもご検討ください。



サステナビリティ・コンサルティング代表
成蹊大学非常勤講師
いかり まさとし
猪刈 正利 様

略歴: 1957年生まれ。1982年東北大学工学部卒業後、三菱マテリアル入社。MS & ADインターリスク総研を経て2018年4月から現職。
公職歴: 環境省主催 第6回(2002年)~第22回(2018年)環境コミュニケーション大賞ワーキンググループ委員。
著書: 「進化する金融機関の環境リスク戦略」金融財政事情研究会共著、「企業の環境部門担当者のためのSDGsをめぐる潮流がサクッとわかる本」日刊工業共著、ほか著書多数